

残留農薬分析が パワーアップ しました



残留農薬一斉分析
LC/MS/MS コース

131 成分

新コース

残留農薬多成分一斉分析
LC/MS/MS コース

131 成分

NEW

殺虫剤、殺菌剤、除草剤などのうち、比較的
新しい成分の分析が得意な検査コースです。特
に、近年、関心が集まっているネオニコチノイド
系農薬検査が得意です。131 成分の農薬残留に
ついて、島津製作所製 LCMS-8050 を利用した
高精度、高感度分析を実施します。

残留農薬一斉分析
GC/MS コース

272 成分

これまでの
230 成分

残留農薬多成分一斉分析
GC/MS コース

272 成分

パワー
アップ

有機リン系農薬や合成ピレスロイド系農薬な
ど、長く使われてきたタイプの殺虫剤、殺菌剤、
除草剤などを広くカバーする分析コースです。今
回、検査成分が、これまでの 230 成分から
272 成分に強化しました。分析費用は今までの
まま。変わらない金額でご利用できます。

残留農薬一斉分析
フルセットコース

+ 378 成分

両方合わせて

残留農薬多成分一斉分析
フルセットコース

フルセット

残留農薬多成分一斉分析の GC/MS コースと
LC/MS/MS コースをセットにしたフルセットです。
合計 378 成分の農薬を検査することができます
(GC/MS と LC/MS/MS とで重複している成分が
25 成分ありますので合計 378 成分になります)。

検査対象成分名は別紙を参照して下さい。

No.	成分名
GC/MS272成分コース	
1	BHC
2	ア-BHC
3	DDT
4	EPN
5	EPTC
6	XMC
7	アクリナトリン
8	アザコナゾール
9	2-アセチルアミノ-5-ニトロチアゾール
10	アセトクロール
11	アセフェート
12	アトラジン
13	アミトラズ
14	アメトリン
15	アラクロール
16	アレスリン
17	イサゾホス
18	イソキサチオン
19	イソフェンホス
20	イソプロカルブ
21	イソプロチオラン
22	イブロジオン
23	イブロベンホス
24	イマザメタベンズメチルエステル
25	イミベンコナゾール
26	ウニコナゾールP
27	エスプロカルブ
28	エタルフルラリン
29	エチオフェンカルブ
30	エチオン
31	エディフェンホス
32	エトキサゾール
33	エトフェンプロックス
34	エトフメセート
35	エトプロホス
36	エトリムホス
37	エンドスルファン
38	オキサジアゾン
39	オキサジキシル
40	オキサベトリニル
41	オキシフルオルフェン
42	オルトフェニルフェノール
43	カズサホス
44	カフェンストロール
45	カルフェントラゾンエチル
46	カルボキシ
47	キナルホス
48	キノキシフェン
49	キノクラミン
50	キントゼン
51	クレシキムメチル
52	クロソリネート
53	クロフェンデジン
54	クロマゾン
55	クロルエトキシホス
56	クロルタールジメチル
57	クロルピリホス
58	クロルピリホスメチル
59	クロルフェナビル
60	クロルフェンソン
61	クロルフェンピンホス
62	クロルブファミ
63	クロルプロファミ
64	クロルベンシド
65	クロロタロニル
66	クロロネブ
67	クロロベンジレート
68	シアナジン
69	シアノホス
70	ジエトフェンカルブ
71	ジオキサチオン
72	ジクロシメット
73	ジクロトホス
74	ジクロフェンチオン

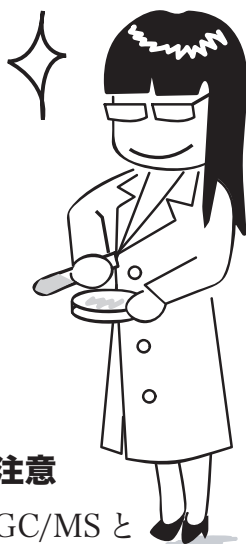
No.	成分名
75	ジクロベニル
76	ジクロホップメチル
77	ジクロラン
78	ジスルホトン
79	ジチオビル
80	シハロトリン
81	シハロホップブチル
82	ジフェナミド
83	ジフェニル
84	ジフェニルアミン
85	ジフェノコナゾール
86	シフルトリン
87	ジフルフェニカン
88	シプロコナゾール
89	シベルメトリン
90	シマジン
91	ジメタメトリン
92	ジメチピン
93	ジメチルピンホス
94	ジメテナミド
95	ジメトエート
96	シメトリン
97	ジメビレート
98	シラフルオフェン
99	ツキサミド
100	ターバシル
101	ダイアジノン
102	チオベンカルブ
103	チオメトン
104	チフルザミド
105	テクナゼン
106	テトラコナゾール
107	テトラジホス
108	テニルクロール
109	テブコナゾール
110	テブフェンピラド
111	テフルトリン
112	デルタメトリン及びトラメトリン
113	デルブトリン
114	デルブホス
115	トリアジメノール
116	トリアジメホス
117	トリアゾホス
118	トリアレート
119	トリシクラゾール
120	トリブホス
121	トリフルミゾール
122	トリフルラリン
123	トリフロキシストロビン
124	トルクロホスメチル
125	トルフェンピラド
126	ナプロバミド
127	ニトロタールイソプロビル
128	ノルフルラゾン
129	バクロブトラゾール
130	パラチオン
131	パラチオンメチル
132	ハルフェンプロックス
133	ピコリナフェン
134	ピテルタノール
135	ピフェノックス
136	ピフェントリン
137	ピペロニルブトキシド
138	ピペロホス
139	ピラクロホス
140	ピラソホス
141	ピラフルフェンエチル
142	ピリダフェンチオン
143	ピリダベン
144	ピリフェノックス
145	ピリプチカルブ
146	ピリプロキシフェン
147	ピリミジフェン
148	ピリミノバックメチル
149	ピリミホスメチル

No.	成分名
150	ピリメタニル
151	ピロキロン
152	ピックロゾリン
153	ファミフル
154	ファミキサドン
155	フェナミホス
156	フェナリモル
157	フェニトロチオン
158	フェノキサニル
159	フェノチオカルブ
160	フェノトリン
161	フェンクロルホス
162	フェンシルホチオン
163	フェンチオン
164	フェントエート
165	フェンバレート
166	フェンブコナゾール
167	フェンプロバトリン
168	フェンプロピモルフ
169	フサライド
170	ブタクロール
171	ブタミホス
172	ブピリメート
173	ブプロフェジン
174	フラムプロップメチル
175	フルアクリリウム
176	フルアジナム
177	フルキシコナゾール
178	フルジオキシニル
179	フルシトリネート
180	フルシラゾール
181	フルチアセツメチル
182	フルトラニル
183	フルトリアホール
184	フルバリネート
185	フルフェンビルエチル
186	フルミオキサジン
187	フルミクロラックベンチル
188	プレチラクロール
189	プロクロラス
190	プロシミドン
191	プロチオホス
192	プロバクロール
193	プロバジン
194	プロバニル
195	プロバホス
196	プロババレット
197	プロビコナゾール
198	プロビザミド
199	プロヒドロジヤモン
200	プロフェノホス
201	プロベタンホス
202	プロボキサニル
203	プロマシニル
204	プロメトリン
205	プロモブチド
206	プロモプロピレート
207	プロモホス
208	プロモホスエチル
209	ヘキサコナゾール
210	ヘキサジノン
211	ベナラキシル
212	ベノキサコール
213	ペルメトリン
214	ベンコナゾール
215	ベンディメタリン
216	ベンフラカルブ
217	ベンフルラリン
218	ベンフレート
219	ホサロン
220	ホスチアゼート
221	ホスファミドン
222	ホスメット
223	ホレート
224	マラチオン
225	ミクロブタニル
226	メカルバム

No.	成分名
227	メタクリホス
228	メタミドホス
229	メタラキシル及びメフェノキサム
230	メチダチオン
231	メトキシクロール
232	メトブレン
233	メトミノストロピン
234	メトラクロール
235	メトリブジン
236	メピンホス
237	メフェナセツ
238	メフェンビルジエチル
239	メフロニル
240	モノクロトホス
241	モリネート
242	レナシル
243	クロルニトロロフェン
244	サリチオン
245	メチルジメトン
246	DCBP
247	テルブカルブ
248	アジンホスメチル
249	アニロホス
250	イマザリル
251	エボキシコナゾール
252	オリザリン
253	カルバリル
254	カルボフラン
255	ジノデフラン
256	ジメトモルフ
257	スピロキサミン
258	スピロジクロフェン
259	ダイアレート
260	タイムロン
261	チアベンダゾール
262	テトラクロルピンホス
263	テブチウロン
264	ピラクロストロピン
265	ピリミカーブ
266	フィフロニル
267	フェノキサプロップエチル
268	フェノブカルブ
269	フラチオカルブ
270	フルフェノクスロン
271	フルリドン
272	ボスカリド
LC/MS/MS131成分コース	
1	2,4-D
2	MCPA
3	TCMTB
4	アイオキシニル
5	アザメチホス
6	アジベンゾラル-S-メチル
7	アジメスルフロ
8	アジンホスメチル
9	アセタミプリド
10	アゾキシストロビン
11	アニロホス
12	アルジカルブ
13	イオドスルフロメチル
14	イソキサフルトール
15	イプロバリカルブ
16	イマザキン
17	イマザリル
18	イミダクロプリド
19	インダノファン
20	インドキサカルブ
21	エタメツルフロメチル
22	エチプロール
23	エトキシスルフロ
24	エボキシコナゾール
25	オキサジクロメホ
26	オキサミル
27	オキシカルボキシ

No.	成分名
28	オリザリン
29	カルバリル
30	カルプロバミド
31	カルボフラン
32	キザロホップエチル
33	クミルロン
34	クロキントセツメキシ
35	クロジナホップ酸
36	クロチアニジン
37	クロラズラムメチル
38	クロリダゾン
39	クロリムロンエチル
40	クロルスルフロ
41	クロロクスロン
42	ジウロン
43	シクラニリド
44	シクロエート
45	ジクロスラム
46	シクロスルファミロン
47	ジノデフラン
48	シフルフェナミド
49	ジフルベンズロン
50	シプロジニル
51	シメコナゾール
52	ジメチリモール
53	ジメトモルフ
54	スピノサド
55	スピロキサミン
56	スピロジクロフェン
57	スルフェントラゾン
58	スルホスルフロ
59	ダイアレート
60	ダイムロン
61	チアクロプリド
62	チアベンダゾール
63	チアメトキサム
64	チオジカルブ及びメソミル
65	チジアズロン
66	チフェンスルフロメチル
67	テトラクロルピンホス
68	テブチウロン
69	テブフェノジド
70	トラルコキシジム
71	トリアスルフロ
72	トリクロビル
73	トリチコナゾール
74	トリフルムロン
75	トリプロキシスルフロ
76	ナブタラム
77	ナプロアニリド
78	ニテンピラム
79	ノバルロン
80	ハロキシホップ
81	ハロスルフロメチル
82	ピラクロストロビン
83	ピラソスルフロエチル
84	ピラゾリネート
85	ピリフタリド
86	ピリミカーブ
87	フィフロニル
88	フェノキサプロップエチル
89	フェノキシカルブ
90	フェノブカルブ
91	フェリムゾン
92	フェンアミドン
93	フェンピロキシメート
94	フェンヘキサミド
95	フェンメディファミ
96	ブタフェナシル
97	フラザスルフロ
98	フラチオカルブ
99	フラメトビル
100	フルフェナセツ
101	フルフェノクスロン

No.	成分名
102	フルメツラム
103	フルリドン
104	フロニカミド
105	プロバキサホップ
106	プロボキシカルバゾン
107	プロモキシニル
108	フロラスラム
109	ヘキシチアゾクス
110	ペノキスラム
111	ベンシクロ
112	ベンスルフロメチル
113	ベンダイオカルブ
114	ボスカリド
115	ホメサフェン
116	ホラムスルフロ
117	ホルクロルフェニ
118	メコブロッ
119	メソスルフロメチル
120	メソミル
121	メタベンズチアズロン
122	メチオカルブ
123	メトキシフェノジド
124	メトスラム
125	メトスルフロメチル
126	メバニリム
127	モノリニロン
128	ラクトフェン
129	リニニロン
130	ルフェヌロン
131	ロテノン



注意
GC/MS と LC/MS/MS とで重複している成分が 25 成分あります。

ネオニコチノイド系農薬を巡る海外の動き

日弁連資料の別添「ネオニコ系農薬海外規制の動向」がわかりやすい。海外の動き詳細は別紙参考のこと

- ・EUは、2013年より一時的に使用禁止しているクロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサムについて包括的使用禁止方針が報道
- ・フランスは18年9月から全てのネオニコ系農薬を禁止
- ・EUで2014年から一部使用制限されていたフィプロニルが9月失効
- ・米国,2015年イミダクロプリド,クロチアニジン,チアメトキサム,ジノテフランの新規登録,変更を停止
- ・カナダはジノテフランの段階的禁止の方針
- ・韓国は2014年、EUの一時禁止を受け、クロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサム使用禁止
- ・台湾では2017年、養蜂農家の要請を受け、ネオニコ3剤のライチとリュウガンへの使用を2年間禁止

市販農産物のネオニコチノイド系農薬残留検査結果

分析センターで、市販品などについて残留農薬378成分分析をおこなった結果は以下の通り（表5）。

- ・ネオニコチノイド系農薬を超高感度分析をおこなうと、検出が認められるものが多い
- ・ネオニコチノイド系農薬の検出頻度は高いが、濃度はかなり低い事がわかる。
- ・基準値超過はない。基準値が日本は高いという議論があるが、EU基準でもクリアしているものはある。

表5 市販農産物のネオニコチノイド系農薬残留検査結果

品名	分析結果		日本の基準値	EU基準値	備考
ブロッコリー	クロチアニジン	0.0004	1	0.02	ネオニコ
	ジノテフラン	痕跡	2	0.01	ネオニコ
	チアメトキサム	0.0017	5	0.3	ネオニコ
	ボスカリド	痕跡	5	5.0	
キャベツ	クロチアニジン	0.0004	0.7	0.02	ネオニコ
	ジノテフラン	痕跡	2	0.01	ネオニコ
	チアメトキサム	0.0048	5	0.02	ネオニコ
大根の根	検出せず		-	-	
大根の葉	ボスカリド	0.0081	40	2.0	
にんじん	検出せず		-	-	
小ねぎ	クロチアニジン	0.0009	1	0.01	ネオニコ
	チアメトキサム	0.0007	2	0.01	ネオニコ
	ニテンピラム	0.0006	2	0.01	ネオニコ
	フルフェノクスロン	0.0006	10	0.05	
	ペルメトリン	0.12	3.0	0.05	
レタス	アセタミプリド	0.0116	10	3.0	ネオニコ
玄米1	検出せず		-	-	JAS有機
玄米2	検出せず		-	-	特別栽培
玄米3	検出せず		-	-	JAS有機
玄米4	検出せず		-	-	JAS有機
玄米5	検出せず		-	-	JAS有機
玄米6	ジノテフラン	0.0023	2	8.0	ネオニコ
玄米7	ジノテフラン	0.0023	2	8.0	ネオニコ
玄米8	ジノテフラン	0.0019	2	8.0	ネオニコ
	リニュロン	0.0041	0.1	0.05	除草剤
	フェリムゾン	0.0073	2	0.01	殺菌剤
玄米6	検出せず			8.0	ネオニコ
玄米7	ジノテフラン	0.0098	2	8.0	ネオニコ
玄米8	ジノテフラン	0.0028	2	8.0	ネオニコ

ネオニコチノイド系農薬の環境と人への影響

海外の研究論文では、イミダクロプリド、ジノテフラン、クロチアニジンなどは、蜂や昆虫、プランクトンに影響を及ぼすことを示すものでている。日本国内でも、金沢大学、畜産草地研究所、石川県立大による報告などがある。人への影響は、子供の神経系の発達に影響を及ぼすという可能性については、まだ明確なものではなく、議論が行われているところ。国立環境研究所の前川文彦さんの論文によれば、アセタミプリドがラットの行動に影響を及ぼしていることが示されている。

ネオニコチノイド系農薬に対して想定される取り組み（分析センターの提案）

1. ネオニコ系農薬の学習会
 - ＞ まずネオニコ系農薬の事を知る（使うからにはその影響と研究を知っておくこと）
2. 残留農薬（ネオニコ系農薬を含む）の検査運動
 - ＞ 使うからにはしっかり検査を（検出レベルは厳しいとされるEU基準を下回るはず）
3. 蜜源を増やす取り組み（次項参考のこと）
 - ＞ ネオニコ系農薬の人体影響は明確ではない。散布自体が環境影響を及ぼす悪、という流れ
 - ＞ 散布するからには環境負荷を減らす、生産社なりの取り組みが必要。
4. ネオニコ系農薬に変わる薬剤や技術開発の要請運動
 - ＞ EU諸国では3剤の使用禁止はほぼ確定。この流れは日本にも来る？

蜜源とネオニコ系農薬との関係

ネオニコ系農薬の広い普及と使用が、蜂群崩壊症候群やミツバチ類減勢の「原因の一つ」であると考えられるが、同時に、ミツバチに必要な蜜源が不足していることも重要な課題。蜜源の不足が、蜂たちの病虫害抵抗性や強群化に影響しているという点は、重要。



- ＞ 弱ったところにネオニコ、これが効いていると。
- ＞ 都会より、田園地帯や畑作特化な地域で蜜蜂を飼う方が難しい。
- ＞ モノカルチャー化が進んでいて、ミツバチの蜜源がほとんど無くなっている。
- ＞ ある一時期は大量に蜜源になる花があるが、それが終わると辛い季節に突入することになる。

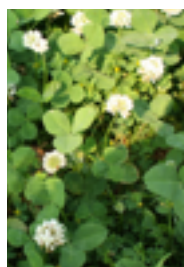
蜜源を植えよう運動

休耕地やちょっとした空き地に蜜源植物を栽培する運動。カーボンオフセットのミツバチ版みたいな取り組み。これはそんなに難しくないはず。成果とその効果を評価する方法が難しいぐらい。

＞ どんな植物を植えるべき？

2月15日、ミツバチの研究者、干場先生に相談。蜜源に向いている植物を伺ってきた。ミツバチには花蜜と花粉が必要。これを満たし、なおかつ一年間を通して花が、途絶えないリレー栽培。

- ・ ナタネ（開花時期：春3～5月、播種：9,10,11月、特徴：緑肥植物）
- ・ レンゲ（開花時期：春4～6月、播種：9,10,11月、特徴：連作不可、緑肥植物、レンゲ蜜は定番）
- ・ ホワイトクローバー（開花時期：春4～6月、播種：3,4,9,10月、特徴：緑肥植物）
- ・ ヘアリーベッチ（開花時期：春4～5月（7月）、播種：9,10,11月、特徴：緑肥被覆植物）
- ・ ハゼリソウ（開花時期：夏秋7～10月、播種：春播3,4月、秋播10,11月、特徴：緑肥植物）
- ・ カラミンサ（開花時期：夏冬7～11月、播種：春播3,4,5月、秋播9,10月、特徴：ハーブティ）
- ・ ヒメイワダレソウ（開花時期：夏冬6～9月、播種：冬以外ならOK、特徴：耐暑寒）



ネオニコチノイド系農薬をめぐる海外の動き

2017年
11月

【フランス】フランス行政裁判所 スルホキサフロールを一時差し止め。フランス・ニース地方行政裁判所は11月24日、スルホキサフロールを含む2つの農薬を一時禁止とする予備判決を下した。日本ではスルホキサフロールが承認間近となっている。

2017年
11月

【イギリス】英国はEUが進めようとしているネオニコチノイド農薬の包括的な禁止に賛成すると、11月9日付けのガーディアン紙（英国）が報じた。英国のマイケル・ゴーヴ環境・食料・農村地域（DEFRA）相が語ったもので、ネオニコ系農薬によるミツバチなどへの悪影響を明らかにした、最近の研究結果を考慮したものだという。英国は、EUにおけるイミダクロプリドなどのネオニコ系農薬の禁止について、12月にも予想されるEU委員会の投票で賛成票を投ずるという。

2017年
5月

【アメリカ】米國小売大手のウォルマートとトウルーバリューは段階的ネオニコ系農薬の排除を明らかにしたと大地の友が発表。電子メールで回答を寄せたウォルマートは、生産者がすでに80%の園芸植物からネオニコ系農薬を排除したことを確認したという。ウォルマートはまた、販売している園芸用品からのネオニコ系農薬を排除したとしている。

2017年
4月

【英国】ホームセンターB&Qは、来春までネオニコ・フリーにすると発表。

【英国】政府は、全英農業者連盟によるナタネ栽培へのネオニコ系農薬の緊急使用申請を却下

【アメリカ】米国連邦地裁は、米環境保護庁のネオニコ系農薬のクロチアニジンとチアメトキサムの農薬登録が絶滅危惧種保護法に違反するとの判決、と原告が発表

【アメリカ】メリーランド州議会、送粉者保護を目的として同州が指定した区域における、ネオニコチノイド農薬などの使用禁止州法案を可決

2017年
3月

【EU】EU委員会、一時使用禁止のネオニコ系農薬3剤について全面禁止のドラフトが明らかに

2017年
1月

【アメリカ】米国魚類野生生物局は、ネオニコ系農薬も原因としてあげ、マルハナバチ（ラスティーパッチド・バンブルビー）が20年間で87%減少し絶滅危惧種に指定と発表

2016年
12月

【アメリカ】米國小売大手のコストコ、ミツバチ保護の観点から販売する園芸植物の脱ネオニコ方針（2016年6月付）を発表。

2016年
11月

【カナダ】カナダ保健省、イミダクロプリドを3年で使用禁止の方針を発表

2016年
7月

【フランス】原則18年9月からネオニコ系農薬を全面禁止。

2016年
5月

【アメリカ】メリーランド州議会、18年1月1日からの全てのネオニコ系農薬の販売と農家などを除く個人使用禁止法が成立

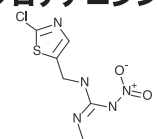
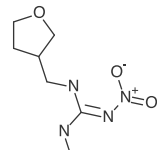
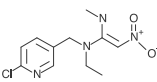
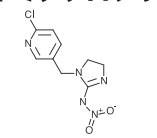
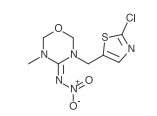
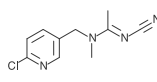
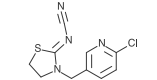
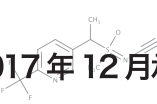
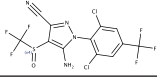
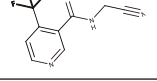
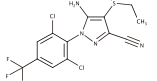
2016年
4月

【アメリカ】家庭用農薬メーカー、ミツバチ保護の観点から脱ネオニコ

EU における 規制	ドイツ	ドイツでは、2008年、蜂の個体激減への対応として、菜種油とトウモロコシ種子コーティング用の殺虫剤製品として、ネオニコチノイド系農薬のイミダクロプリド剤3種、チアメトキサム剤1種、クロチアニジン剤2種の登録を一時停止した。2013年のEC規制を受けて、ドイツはチアメトキサムとイミダクロプリドを含む数種類の殺虫剤の登録を停止した。また、2015年にはクロチアニジン、イミダクロプリド、またはチアメトキサムで処理された冬小麦の種子の使用と輸入を禁止した。
	フランス	フランスでは、イミダクロプリドの使用開始後、蜂の大量死が発生したことから、予防的措置として、1999年にイミダクロプリドによるひまわり種子処理を、2004年にはトウモロコシ種子処理を一時停止した。2016年7月、フランス議会はすべてのネオニコチノイド系農薬及びフィプロニルの使用禁止を可決、同規制は2018年9月に発効される予定である。
	イタリア	2008年に、イミダクロプリド、チアメトキサム、クロチアニジンの3種のネオニコチノイド系農薬及びフィプロニルによるトウモロコシ種子の処理について、予防原則に基づき暫定的に使用が停止された。
	オランダ	2000年にイミダクロプリドを開放系栽培において使用することを禁止した。また、2014年3月、オランダ議会は、ネオニコチノイド系農薬をより全般的に使用制限する法案を可決したが、オランダ農務大臣はこの可決を妥当とせず、この法案は発効していない。
	スウェーデン	スウェーデンにおいては、2008年に、すべてのチアメトキサムの承認を取り消し、クロチアニジンの新たな承認を取りやめているとされ、さらに2013年、EUレベルでの使用禁止に対応して、スウェーデン化学物質庁により、農業用のイミダクロプリド製品と4つの消費者向け製品の使用が禁止された。
	デンマーク	2000年にイミダクロプリドの販売を禁止した。
	スイス	スイスにおいては、2013年、EUレベルでの使用禁止に対応して、イミダクロプリド、チアメトキサム、クロチアニジンの使用の一時的な禁止を決定し、これらの農薬の菜種油やトウモロコシの種子処理への使用を中止すると発表した。
	オーストリア	オーストリアにおいては、2013年1月に、クロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサムの使用を禁止した。また、同年、冬穀物への使用も禁止した。
	スロベニア	2008年5月、チアメトキサム、クロチアニジン及びイミダクロプリドについて、トウモロコシの種子、油糧種子、菜種、サトウダイコンの種子を処理することが禁止された。但し、油糧種子については、処理方法の改善により、同年後半使用制限が撤廃されている。他方で、2011年4月、上記以外のトウモロコシの種子へのチアメトキサムとクロチアニジンの処理についても一時中止されている。
北米・南米 における 規制	イギリス	2013年のEU規制に対して、クロチアニジンとチアメトキサムについて、国内のナタネ畑のうち5%に対し年間120日間に限るという条件付きで使用することを許可した。
	カナダ	カナダ連邦政府レベルでは、ネオニコチノイド系農薬の使用は禁止されていない。他方で、オンタリオ州、バンクーバー市など、州や市レベルでは規制が行われている。具体的には、オンタリオ州では、2015年からトウモロコシと大豆のネオニコチノイド系農薬による種子処理が段階的に禁止されている。また、バンクーバー市では公園管理局による使用が2014年から禁止されている。
	米国	米国では連邦レベルでのネオニコチノイド系農薬の使用禁止の事実はなく、一部の市においてネオニコチノイド系農薬の使用・販売の禁止（アラスカ州スカグウェイ郡自治市）や市有地・市の管理地における使用禁止（ワシントン州シアトル市など）が決定されている等の状況である。ただし、複数のネオニコチノイド系農薬の毒性の評価は進められており、米国環境保護庁（EPA）は、2015年8月26日に、新規の野外用ネオニコチノイド系農薬の使用を承認する可能性は低い旨を公表したり、2016年1月6日にはミツバチに潜在的有害性を持つ殺虫剤イミダクロプリドの予備的リスク評価を公表するなどしている。
アジア における 規制	ブラジル	2015年、ブラジル農業戦略防衛局とブラジル環境・再生可能天然資源院（IBAMA）は、綿花及び開花時期に綿花農場から300m以内で栽培される冬季農作物に対し、3種類のネオニコチノイド系農薬（イミダクロプリド、チアメトキサム、クロチアニジン）の使用を禁止した。
	中国	現在のところネオニコチノイド系農薬の使用は禁止されていない。もっとも、2013年のEU規制を受けて、中国農業部農薬検査所（ICAMA）は、ネオニコチノイド系農薬の管理を検討するリスク評価ワークショップを開いている。フィプロニルについては、2009年には使用を規制している（輸出用等は除く）。
	台湾	農業委員会は、2014年5月14日、茶葉へのフィプロニルの散布を禁止とすることを決定した（2016年1月1日発効）。但し、土壌の虫駆除にフィプロニル剤を用いることは禁止されていない。
	韓国	2014年、EU規制を受けて、農村振興庁（RDA）はチアメトキサム、クロチアニジン、イミダクロプリドの3種類のネオニコチノイド系農薬に関し、期間限定で使用を禁止すると発表した。



資料 1：ネオニコチノイド系農薬の成分名と代表的商品名

	成分名	代表的商品名
1	クロチアニジン 	フルスウィング、ダントツ系、ハスラー系、モリエート系、ベニカ系、プロパック、オルトラン DX 粒剤、ワンリード、キクゾー、ベニカケムシエアゾール、ツインターボ、箱入り娘、ガーディアンアシスト、サイクルヒット、トライ、トライ 2、箱王子、カイガラムシエアゾール、チームワーク、ボクシー、マッキーノ、スタウトパディート、箱大臣など。
2	ジノテフラン 	スタークル系、アルバリン系、イッカツ系、ワイドナーエース、トレボンスター系統、わさび用緑風 SG、サジェスト微粒剤 F、アントム顆粒水和剤、キックオフ顆粒水和剤、スターガード系、ワッシュイット粉剤 DL、アトラクトン箱粒剤、スターダム箱粒剤、ロングリーチ箱粒剤、スケルカット、スケルノック、オールスター、ウッドスター系、ウッドセーバー、ハイポネックス原液（殺虫剤入り）、ハイポネックス原液（プラス殺虫剤）、ガッツスター、ゴウケツモンスター粒剤、サントリプル箱粒剤、ハイパーキック箱粒剤、ゴウケツバスター箱粒剤、サンフェスタ箱粒剤など。
3	ニテンピラム 	ベストガード系、ベスト系（パダンベストなど）。
4	イミダクロプリド 	アドマイヤー系、ブルースカイ系、ガウチョ系、タフバリア系、フルサポート系、パワーリード系、アースガーデン、ワークワイド顆粒水和剤、リードックフロアブル、クラップ AD 粒剤、ルーチン系（ルーチンアドスピノなど）、ガードナーフロアブル、タフステインガーフロアブル、シャリオ箱粒剤、エバーゴル系（エバーゴルフォルテ箱粒剤など）など。
5	チアメトキサム 	アクトラ系、クルーザー FS30、リーズン顆粒水和剤、ビートルコップ顆粒水和剤、カダンスプレー EX、アトラック液剤、デジタルメガフレア箱粒剤、ガーディー系、カダンプラス DX、花華やか、ジュリボフロアブル、キープレイヤー、花色彩、クルーザー系、デジタルメガフレア箱粒剤、ツインアタック顆粒水和剤、ミネクトデュオ粒剤など。
6	アセタミプリド 	モスピラン系、イールダー、カダン殺虫肥料、マツグリーン液剤、レインボーフラワー系、モストップジン R スプレー、マイテミンスプレー、ダイリーグ粒剤、アベイル粒剤、イマージ液剤など。
7	チアクロプリド 	バリアード系、エコワン系、ブイゲット系など。
8	スルホキサフロル  2017 年 12 月承認	トランスフォームフロアブル、日産トランスフォームフロアブル、ホクコートラ ンスフォームフロアブル、エクシードフロアブル、日産エクシードフロアブル、 ホクコーエクシードフロアブル 検査は近日中に対応予定
9	フィプロニル 	プリンス系、ギャング系、ピカピカ粒剤、コメホープ箱粒剤、北おろし箱粒剤、トップチョイスフロアブル、ハコナイト粒剤など
10	フロニカミド 	ウララ系
11	エチプロール 	クラップ系、ゲットワン系、フジワンラップ粒剤、ダブルカット系、ルーチンクアトロ箱粒剤、ホクセットエース粉剤 DL、トライ系、ワイドパンチ豆粒など。

フィプロニル、フロニカミドやエチプロールは、ネオニコチノイド系農薬ではありませんが、ネオニコチノイド系農薬と同じような影響を環境に与えているのではないかと、注目されている薬剤です。

分析料金一覧表

いずれも消費税別

分析項目	検査機	一般会員	募金協力会員	農民連会員
食品放射性物質汚染の分析				
迅速分析(米、土など、前処理不要のもの)	NaIシンチ	8,000	6,000	4,000
迅速分析(野菜、魚など前処理がいのもの)	NaIシンチ	12,000	9,000	6,000
Ge検出器による精密分析(米、土など)	ゲルマ	15,000	11,250	7,500
Ge検出器による精密分析(野菜、魚など)	ゲルマ	19,000	14,250	9,500
残留農薬分析				
残留農薬一斉分析GC/MS 272成分コース	GC/MS	30,000	22,500	15,000
残留農薬一斉分析LC/MS/MS 131成分コース	LC/MS/MS	25,000	18,750	12,500
残留農薬一斉分析フルセットコース(378成分)	GC/MS,LC/MS/MS	55,000	41,250	27,500
残留農薬一斉分析ネオニコチノイド系農薬7剤+2剤	LC/MS/MS	24,000	18,000	12,000
残留農薬グリホサート分析	LC/MS/MS	24,000	18,000	12,000
残留農薬単一成分分析(上記コースに含まれないもの)		10,000～	7,500～	5,000～
食品添加物分析など				
さまざまな食品添加物などの検査	各種	15,000	11,250	7,500
栄養成分分析				
ビタミンC分析(簡易法)	RQ Flex	7,000	5,250	3,500
ビタミンC分析(精密法)	HPLC法	12,000	9,000	6,000
アミノ酸分析(野菜、お茶、肉など)	HPLC法	60,000	45,000	30,000
食品の糖度測定	Brix法	6,000	4,500	3,000
食品の酸度測定	Brix法	6,000	4,500	3,000
遺伝子組換え作物検出試験				
簡易検出試験(イムノクロマト法)	イムノ	7,000	5,250	3,500
PCR法による精密定性法	PCR法	20,000	15,000	10,000
リアルタイムPCR法による精密定量法共同研究	RT-PCR法	対象作物種による	対象作物種による	対象作物種による
重金属分析				
検査対象重金属が1つの場合	原子吸光	10,000	7,500	5,000
+1金属ごとに		5,000	3,750	2,500
米の品種DNA判定				
特定品種定性判定(コシヒカリ、あきたこまち、はえぬ)	PCR法	12,000	9,000	6,000
コシヒカリ品種精密定性判定(BLなど)	PCR法	15,000	11,250	7,500
その他の品種のDNA判定	PCR法	36,000	27,000	18,000
特定品種定量判定(混入率判定)	PCR法	60,000	45,000	30,000
その他の品種のDNA判定(混入率判定)	PCR法	70,000	52,500	35,000
米の鮮度判定				
米の鮮度簡易判定	pH,グアヤ	6,000	4,500	3,000
油脂類の品質評価試験				
脂肪酸組成測定	GC法	15,000	11,250	7,500
脂肪酸価測定		7,000	5,250	3,500
酸価測定		7,000	5,250	3,500
ケン価測定		7,000	5,250	3,500
異物混入試験				
異物混入試験総合		20,000～	15,000～	10,000～